

日中友好新聞

読字 原田 観

No. 783

2015/ 12/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0033 東京都文京区
西目黒1-1-1 西目黒ビル

日中友好協会
岡山支部
〒710-8256
岡山市東区3-8-30 514
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市連島中央1-8-4 (宮地方)
TEL:FA(086)446-2711

岡崎嘉平太記念館を見学 — 中国文化の一端に触れる —

11月20日(金)、芳田日本語学習講座の受講生と講師8人は、吉備中央町の岡崎嘉平太記念館を見学しました。2012年に次いで2回目です。

事前に予約していたので、館の職員があたたかく出迎えてくれました。

職員の初岡さんが、日中貿易などを通して国交正常化に尽くした岡崎氏の一生を写真とパネルをもとに、ていねいに説明してくれました。

中国帰国者の受講生は、書斎コーナーに掲げられていた周恩来総理の写真、中国の古

ていた。ペンや筆などの興味を示し、写真におさめました。

今回は、9月20日から12月27日まで開催されている

秋の特別企画「岡崎嘉平太の遺品に見る中国」も參觀しました。

ここには、中国・北京市香山公園でくつろぐ写真、藩恭寿画「倭文伯仁泉水図」、京劇の面のミニチュア、鳳の図案など中国文化の一端に触れることができました。

現在、日本と中国の国民感情はよくありません。文化やスポーツの交流を通して、相互理解を深めていくことが日中友好のために大切です。

今回の企画は、時宜を得た催しだと思いましたが、秋の行楽日和に、楽しい校外学習ができました。

つぎに、2人の受講生の感想を紹介します。



左から2人目が黒田さん 3人目が益田さん

岡崎嘉平太記念館

訪問の感想文

黒田 知恵

岡崎記念館は、岡崎氏の遺徳をしのびその業績を顕彰するため、平成13(2001)年に開館しました。館内は飾り約7500件の遺品、一番の印象は中国との関

係の遺品、岡崎氏が訪中時に持ち帰った周恩来の画像や彫像、各種記念バッジは長年の彼と中国との付き合いの証。岡崎氏は、幼少にして父と死別し、母の手ひとつで育てられました。

22歳の時、東京帝国大学法学部政治学科へ入学しました。25歳で日本銀行へ入行本店勤務。昭和21年(1946

年)49歳の岡崎氏は上海から帰りました。帰国後は何度も企業の要職に就任。

岡崎氏は何度も訪中、日中国交正常化の過程の中で重要な役割を發揮しました。

岡崎氏は中国人が敬愛する古い友人、別名、中日友好の井戸を掘る人。

天気も良く、よい見学会でした。

益田 聖子

岡崎先生は1897年、岡山県賀陽郡吉備中央町に生

まれました。

先生は一生懸命に日中友好交流、両国民間交易、日中航空協定などを促進しました。

戦後100回に及ぶ訪中で中国人の古くからの友人と称されています。本当に中国を愛する日本人として深く尊敬されています。

中国の要人、郭沫若、周恩来、鄧小平などと何度も接見しています。

日中両国が世代を超えて日中友好が長く続くことが岡崎先生の一生の願いです。

日中友好協会 倉敷支部

2015年度 望年会

日時:12月5日(土)18時より
場所:又来軒(天満屋6階)
会費:5,000円

支部結成10周年の望年会、ともに祝いましょう!

この12月は、日中友好協会倉敷支部10周年に当たります。この10年間の支部の歩みをどうぞ覧になりますか?

日中関係が最悪といわれる中でも、それにひるまず「日中友好は平和の基礎」「中国は大切な隣国、もっと友好的に」と主張する市民組織はかけがえのないものです。もっと幅広く、もっと楽しく!を合言葉に前進を目指しています。どうぞ、日中倉敷支部の望年会にご参加ください、お願いいたします。



日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.biz/
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp

第七回特別講演会を聞いて

11月21日(土) 岡山国際交流センターで、岡山県華僑華人総会が主催する、第七回特別講演会に参加した。今回の講演には約30人が参加し、三人の講演者からの話を聞いた。

第一番目が、旅日華僑交流促進会代表の林伯耀氏が「在日中国人の歴史を振り返る」と題して、在日中国人の人権を語った。中でも、花岡事件や関東大震災の中国人虐殺に関して詳しい内容であった。しかし、こうした事件は「歴史上」のこ

とだけではなく、今でもヘイトスピーチをする在特権グループから、林氏に対して「切腹して日本人に謝れ」と脅迫文が、今日まで続いている様子がわかった。

二番目が長野県阿智村にある満蒙開拓平和記念館副館長の寺沢秀文氏の「満蒙開拓平和記念館の設立趣旨」にかかわる講演だった。寺沢氏は戦後生まれであったが、ご両親が吉林市近くにあった水曲柳開拓団(大日向村開拓団の隣)の出身者であった。寺沢氏のお話を聞きたくて、今回の講演には高見英夫さん、高杉久治さん、今岡寛さん、小林軍治先生も出席された。パワーポイントを駆使され

て、満蒙開拓平和記念館の内部の映像や開拓団の写真、青少年義勇軍のあどけない顔が印象に残った。三番目が、一般社団法人日中協会理事長の白西紳一郎氏の「これからの日中関係の展望」という講演であった。白西氏は被爆体験から日中友好の懸け橋となつて訪中回数だけでも六百回を超えるそうだ。特に尖閣列島をめぐる日中の係争に關して、知恵のない話で「安保法案を通すために危機を

あおった」と断定し、先人(田中角栄や鈴木善幸)が決着したように「棚上げ」で日中友好は保持できるこ

とを強調されていたのが印象的だった。

青木康嘉

『中国の若者は今・・・』

『日中友好の 大河の一滴』にならん！

倉敷市老人クラブ大会(倉敷会場)での記念講演 南京・三江学院日本語科元教師河本雅明氏のお話を聞きました。演題は「甲国の若者は今・・・」日中友好の「大河の一滴」にならん！

日中友好協会倉敷支部は、2009年に河本先生が、今日話された南京・三江学院にお邪魔し、学生と交流をしました。私はその中で「中国の学生は、まじめに本当によく勉強をする」日本にあこがれている学生が多い」「日中友好運動に興味を持っている」などなどの感想を本稿(よし子の微笑みブログpart1)に書きました。今日の先生の講演を聴いて学生たちが、日中友好の「大河の一滴」にならん！と頑張っていることがよく分かり頼もしく思われました。(写真は南京・三江学院の学生と懇談をする日中友好協会倉敷・岡山支部のみなさん2009.11月) 大本芳子



津高公民館で中国語講座開講

日中友好協会岡山支部は、2015年12月、2016年1月、2月の3か月(計9回)限定で、中国語講座を開講します。講師は、馬 小菲さんです。

12月7日(月)13時～15時に開講式を行います。現在は受講生は3人です。受講希望の方は当日見学に来てください。

なお、3月以降については、日中岡山支部、講師、受講生で相談して決めます。

連絡先: 日中岡山支部 小林軍治

TEL 090-8240-2001

ネパール旅行(1)

10月18～29日

稲葉泰子

岡山大学山岳会がダウラギリ五峰の初登頂を行つてから、40周年、その時にお世話になったという山麓の人たちへの教育支援を始めて5年、今年4回目の支援をする会のご好意で一緒にさせていただいて行ってきました。4か所の村々を訪れてきました。

私たちが旅もその影響を少なからず受けました。しかし、どの国にも屈服せず、国民の生活と福祉と平和の立場で為政者は行つてほしいと思いました。その点、3番目に訪れた、地域の短大という説明を受けた学校の壁には大きく EDUCATION IS THE VACCINE OF VIOLENCE」と書いてありました。学校と行つても、教室の中は土間のように、白板と机と椅子があるだけ、現代の日本では考えられないような環境だけれども、この、教育の意味、ことばには、日本の学校ではなかなかないすばらしさを感じました。 つづく

次回の新聞発送作業は12月14日(月)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

川林田和 石小真竹内 竹内井 坪